苦悩を乗り越え 2年ぶりのクラブ日本一

マツゲン箕島硬式野球部 投打充実で5度目の雪辱V

クラブチームの最高峰を決める第44回全日本クラブ野球選手権大会が8月26日から4日間メットライフドームで開催された。2年ぶりの日本一へ導いたマツゲン箕島硬式野球部・西川忠宏監督（箕島高）は決勝前に優勝旗を「忘れ物」と表現した。昨年は大和高田クラブとの決勝で惜敗（7対9）。西川監督は「優勝と準優勝はまったくの別物。あんな悔しい思いは二度としないよう、『決勝までいったら優勝しかないぞ』と選手には声をかけた」。1年後、雪辱を果たしたのである。

OBC高島との決勝では、左腕エース・和田拓也（京都学園大）がテンポの良い投球でわずか1安打に抑え、ツケ入るスキを与えなかった。打線は6安打で7得点と効率の良い攻撃で7回コールド（7対0）と圧倒。大会を通して好投を見せた和田は最高殊勲選手賞、夏見宏季（関西国際大）が打率・643（14打数9安打）で首位打者賞を受賞している。

和田の活躍の裏には苦悩もあった。昨年までともにチームを支えてきた寺岡大輝（大産大）が現役を引退。その穴を埋めるため、冬場は球速アップを目指し食事面を改善し、体重を5キロ増。「何かを変えたい一心ではあったものの、失敗でした。寺岡の分も自分が何とかしなくてはと考え過ぎて重圧と戦いながら投げるうちに、左肩を故障していました」。

▲2年ぶり5度目の優勝に輝いたマツゲン箕島硬式野球部の挑戦は、まだ終わらない（写真＝豊島若菜）

■第44回全日本クラブ選手権結果

1回戦	スコア	準々決勝	準決勝	決勝
大和高田クラブ（東近畿⑱）	6	4 ⑪	4	
富士通アイソテックベースボールクラブ（東北⑤）	3			
所沢グリーンベースボールクラブ（関東⑥）	5	2		
札幌ホーネッツ（北海道⑤）	4			
松山フェニックス（中国・四国⑥）	6	2		
オールいわきクラブ（東北④）	2			
THINKフィットネス・GOLD'SGYMベースボールクラブ（関東④）	3			
OBC高島（東近畿③）	4	3	5	0 ⑦
YBC柏（関東③）	0			
ビッグ開発ベースボールクラブ（九州⑥）	2	4	2	
千曲川硬式野球クラブ（北信越⑤）	4	1		
ゴールデンリバース（東北⑥）	0			
横浜金港クラブ（関東⑨）	5	1		
弘前アレッズ（東北⑤）	3			
矢場とんブースターズ（東海③）	1			
マツゲン箕島硬式野球部（西近畿⑨）	6	5	6	7

優勝 マツゲン箕島硬式野球部 2年ぶり5度目

※カッコ内は出場地区と出場回数

日本選手権での初勝利が目標

すべてがマイナスではなかった。和田は5、6月に登板できず、落ち込んだ時期もあった。治療に専念し、チーム離脱中に、野手たちからこんな言葉があった。「お前が投げられない分、俺らが打ってやるから安心しろ！」。仲間との新たな絆が生まれ、和田の復帰後は投打ともに勢いのあるチームへと変貌を遂げた。

1996年に「箕島球友会」として発足し、04年に「和歌山箕島球友会」、そして今年から現チーム名に改称。選手たちは大阪、和歌山で展開するスーパーマーケット「マツゲン」に勤務しながら野球に取り組む。クラブ選手権制覇により、2年大会ぶり6回目となる社会人日本選手権（京セラドーム）への出場権を手にした。西川監督は「日本選手権で勝つためには、和田と松尾大輝（鳥羽高）以外の投手陣強化は必須。全員野球で挑みたい」と語る。クラブ日本一は通過点。「打倒・企業チーム」を目標に、悲願の初勝利へ向けた挑戦が続く。

（取材・文＝豊島若菜）